（第３号様式の２）

成　高　第　153637　号
平　成　28　年　3　月　16　日

大阪府教育委員会教育長　様

大阪成蹊女子高等学校
校長　　紺野　昇

学校経営推進費　評価報告書（２年目）

標記について、下記のとおり提出します。

１．事業計画の概要

実施課程名	**全日制の課程**
取り組む課題	**生徒の学力の充実**
評価指標	**・日本英語検定協会英語能力テスト2級、準2級の合格者の割合 ・日本漢字能力検定協会漢字能力テスト2級、準2級の合格者の割合 ・実務技能検定協会秘書検定2級、3級の合格者、及びその他検定合格者の割合**
計画名	検定試験合格と学校力の飛躍計画

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	大阪成蹊女子高等学校の教育計画より「中期的目標」（抜粋） ③ 本校の学びの目標である成蹊スタンダードを明確にし、その3ヵ年の教育目標の達成に向けた各教科の取組みを計画的に進める。また、生徒の学習意欲を高めるために、生徒の学習意欲の向上と達成感の醸成のために、各種検定試験の活用を勧める。また、日々の教科指導を点検し充実させるなど、「わかる授業」の実践と学力の向上を図る。 （各種検定を活用した学習の促進） ④ 本年度から全コースで実施するキャリア教育を更に充実させ、それをベースとして、各コースの特色ある取組みの更なる充実をめざして他校との区別化を図る。(キャリア教育の推進と特色あるコースの鮮明化)
事業目標	本校は中堅層の生徒が学ぶ私立女子校であり、幅広い学力と多様な学習目標の生徒が集まっている。とりわけ、特進・幼児教育・スポーツ・美術・キュリア進学の特色ある5コース制のもとで、自立した女性として社会で活躍する人材育成をねらいに教育活動を展開してきたが、生徒・保護者の要望に応えるために、更なる教育力の向上が必要となってきた。今回、「女子に特化したキャリア教育」を教育目標の中心に位置づけ、将来の夢と目標の実現に向けて基本的な知識としての学力の向上と自立心の育成、自己肯定感の醸成をねらいとする経営計画を策定した。その目標達成に向けた方法として、各種検定の資格取得を全校的に推奨し、コース毎の多様な生徒ニーズに対応して英検・漢検・秘書検定・料理検定・歴史検定など各種検定の中から生徒に複数の検定受検を義務付け、校内的には対策補習の他に、関連科目の内容に資格取得のための取組みを体制的に加え、卒業までに自己達成目標として一定レベルの級の合格を必須とする指導計画を作成した。この計画では全生徒を対象に、関連する科目の授業や放課後補習でＩＣＴを活用した検定対策も十分に行うほか、平成27年度から検定対策を主目的とする学校設定科目をカリキュラムに組み込むなど全校的な体制に整備する。併せて、生徒の資格取得の達成と学力向上をめざしており、検定受検の取組みによる学習意欲と達成感の向上を起爆剤にして、日常的な一般的な学力向上の契機になることも期待したい。また、その実現に向けた学習ツールとして本校のＩＣＴ活用の環境を整え、ＩＣＴ教育の向上も図る。また教員管理の面でも、検定受検で合否が客観的に出るため、個々の教員の指導力評価指標としても活用できるので教員の指導力改善にも繋がる。本計画では、検定取得に向けた校内の取組みの強化を通して、生徒の基礎学力と達成感から派生する学習意欲の向上、学校のＩＣＴ環境の整備、評価を通した教員の授業指導力の向上が期待できるなど、学校全体の教育力の向上を目標として本計画を推進したい。
整備した設備・物品	① タブレット型パソコン（ｉ-Pad） 1クラス生徒数分として40台、及び関連する充電機器と管理庫 ② 授業説明用の電子黒板1台とプリンター等の接続する周辺機器 ③ 全教室の黒板の上に設置する固定式のプロジェクター用ロールスクリーン ④ 図書館に整備する各種検定（英検、漢検、秘書検定、料理検定、歴史検定等）受験対策図書を各複数
取組みの主担・実施者	担当組織として学力・検定対策プロジェクトチーム（教頭、主幹教諭、副主幹教諭、教務部長、教務部1名ほか）を設置し、主担に本校の主幹教諭または副主幹教諭を配置する。
本年度の取組内容	① 本予算で全教室の黒板に設置したロールスクリーンを活用した授業が広がり、英語・数学・国語等の教科で使用場面が拡大した。特に、英語の授業では視聴覚機器の活用は進んできた。 ② 図書室に設けた無線ＬＡＮにより、本予算で購入した40台のi-Padを使用した情報検索学習が少しずつ拡大。また、エバーノート社との提携により、英語科教員のリーディングをデーベース化し、その返信として生徒の音読を送信する自主活動・家庭学習課題をICTによりサポートできた。 ③ 本予算で購入した検定対策本、対策ソフトを使った個別学習機会の更なる拡大を図った。また、漢検・英検のＰＣ対策ソフトの使用も生徒の自主学習の機会として活用した。 ④ 本予算で購入した多目的ホールの大型プロジェクターは大変役に立ち、講演会の充実を図り、様々な研修会が実施できた。
成果の検証方法と評価指標	① 秘書検定の達成目標　…　1年生　3級合格者を80% ② 英語検定の達成目標　…　1年生　2級合格者を3%、準２級合格者を5%、3級合格者を50% ③ 漢字検定の達成目標　…　1年生　2級合格者を5%、準２級合格者を8%、3級合格者を60%
自己評価	①秘書検定は1年生全員431名が受験し、2級(44.4%)と3級(26.5%)を合わせた合格者は、71%に達することができた。（評価〇） ②英語検定は、本年度のべ1368名が受験。1年生(431名)に対する割合の算出では、2級合格は20名で4.6%、準2級は127名で29.5%、3級は417名で96%に達した。(評価は◎) ③漢字検定では、1年生の2級合格者は0、準2級は1.4%、3級合格者は26.5%で目標を大きく下回った。(評価は△) ④料理検定では希望制ではあるが、2級の合格率27.3%、3級の合格者は59.2%で、目標に達した。(評価は◎)
次年度に向けて	・今年設置した学力・検定対策プロジェクトチームは、主幹、副主幹の中間管理職を採用した。次年度以降も、学力向上の具体的指標として各種検定の合格率の向上をめざすこととする。 ・電子黒板、i-padなどＩＣＴ機器の活用を更に促進する。本年度の電子黒板の活用はまだまだ不十分であり、今後は更にタブレットＰＣの活用が広まるよう、年度はじめの教科の指導計画に位置づけ、教員研修の充実を図ることとする。 ・本校の特色となっているキャリア教育の科目「キャリアデザインα」の中で、年度初めに、全生徒に本年度の合格目標を設定させる。1年間の学びと目標達成に向けた計画を立案させ、実行させる、生徒の自主的な検定対策の促進を図ることとする。

３．事業費

事業費(2年目)	**0　円**	事業費総額	円

積算内訳

＊決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額	納品日
	1　報償費	1					
		2					
		3					
					小計	0	
	2　旅費	1					
		2					
		3					
					小計	0	
	3　消耗需用費	1					
		2					
		3					
					小計	0	
	4　維持需用費	1					
		2					
		3					
					小計	0	
	5　委託料	1					
		2					
		3					
					小計	0	
	6　使用料及び賃借料	1					
		2					
		3					
					小計	0	
	7　負担金・補助及び交付金	1					
		2					
		3					
					小計	0	
					合計	0	